中酪情報　No.532
2011年3月31日発行
毎号奇数月末発行

発　　行：社団法人　中央酪農会議
編集・発行人：内橋政敏
〒101-0047　東京都千代田区内神田1-1-12　コープビル9F
TEL：03-3219-2611（代）　FAX：03-3219-2622

ご意見・ご感想をお寄せください。

読者の皆さまにもっと本誌をご活用いただきたく、より良い誌面作りに向けて努力してまいります。本誌へのご意見やご要望、ご感想がございましたら、電話・FAX・ホームページにて下記の「中酪情報」編集部までお寄せください。皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

宛先及びお問合せ先

〒101-0047　東京都千代田区内神田1-1-12　コープビル9F
社団法人　中央酪農会議「中酪情報」編集部
TEL：03-3219-2611（代）　FAX：03-3219-2622
http://www.dairy.co.jp/
（中酪HP「お問い合わせ」ページよりアクセスできます）

編集後記

このたびの東北地方太平洋沖地震で被災された地域の皆様に心よりお見舞いを申し上げるとともに、お亡くなりになられた方々への心よりのお悔やみを申し上げます。今回の教訓から学ぶべきものがあるとするならば、それはいったい何なのでしょうか。それは現代社会が常に自然の脅威にさらされているという事実にほかならないでしょう。この点の重要性は、いくら強調しても強調しすぎることはないと思います。
本号のリレーコラムでは、感染症問題を取り上げました。昨年末の韓国における口蹄疫の蔓延が端無くも示しているように、酪農経営にとって大規模感染症はまさに災害であります。林先生が指摘するように、バイオセキュリティ対策（防疫対策）には2つの側面があります。感染症の農場外部からの侵入と、フレアアップを防止する対策です。しかし現実問題として、個々の酪農家が動物実験施設のように感染症の侵入経路を完全に断つことは不可能に近いでしょう。他方、フレアアップ、つまり感染症が侵入してしまった場合に、農場内で感染症が燃え盛ること、あるいは農場外へ燃え広がることを防止するため、効果的な初動体制を準備しておくことは可能ではないでしょうか。感染症の炎は小さいうちに消火することが重要なので、日頃からフレアアップを防止する万全の備えをしておくことが求められます。